

## 周産期患者の口腔ケアの必要性



佐藤智紀

Tomoki Sato

福田病院産婦人科医

現在、日本は深刻な少子化に直面しています。2025年度の出生数は約70.5万人と10年連続で過去最少を更新しました。一方で、不妊治療の保険適用に伴い、高齢妊娠を含む「ハイリスク分娩」の管理が我々医療従事者の喫緊の課題となっています。こうした中、プレコンセプションケア(妊娠前ケア)を含めた母体の管理は、産科的リスクを軽減する上で極めて重要な位置付けにあります。特に妊娠中の口腔ケアは、母体のみならず胎児の健やかな発育に直結します。妊娠期はホルモンバランスの変化や悪阻(つわり)によって歯周病リスクが高まりますが、最新の知見では、重度の歯周病が早産や低出生体重児を引き起こすリスクは、飲酒や喫煙よりも高いことが示唆されています。

歯科口腔ケアは「マイナス1歳からの虫歯予防」であると同時に、安全な出産の鍵を握る医療介入です。

今回は、その重要性を再確認するとともに、具体的な処置内容、施術時の留意点、さらには万が一の有害事象発生時における的確な対応について、解説いたします。

### 【略歴】

2014年 3月 帝京大学医学部 卒業

2014年 4月 湘南藤沢徳洲会病院 初期研修医

2016年 4月 社会医療法人愛育会 福田病院

2026年 4月 社会医療法人愛育会 福田病院 分娩室医長・生殖内分泌外来副医長

### 【資格】

産婦人科専門医・指導医

母体保護法指定医

母体救命インストラクター